

第14回 全日本民医連 学術・運動交流集会(長野) 開催要項

メインテーマ

- 医療・介護活動の2つの柱を实践し、民医連の新たな発展期を築こう。
- いのちと人権を守る運動をさらに発展させ、誰もが安心して住みつづけられるまちづくりをすすめよう。
- 憲法を生かし、平和で誰も置き去りにしない世界をつくっていこう。

開催日時

2019年10月11日(金) 9:30(※9:00開場) ~ 12日(土) 12:00

第1日目 2019年10月11日(金) 9:00 ~ 18:00

- 9:00 ~ 開場・受付
- 9:30 ~ オープニング企画
- 9:50 ~ 開会挨拶 根岸 京田 氏 (第14学術・運動交流集会実行委員長)
会長挨拶 藤末 衛 氏 (全日本民医連会長)
開催地県連挨拶 清水 信明 氏 (長野民医連会長)
特別報告 特別養護老人ホーム あずみの里
ビデオメッセージ 玉城 デニー 氏 (沖縄県知事)
- 10:20 ~ 記念講演: 伊藤 千尋 氏 (国際ジャーナリスト)
「憲法が生きる社会を目指して~これから私たちが輝けるために~」
- 12:00 ~ 事務局連絡
- 12:10 ~ 昼食休憩
- 13:10 ~ ポスターセッション (第1部)
- 14:30 ~ 自由討論(10分)
- 14:40 ~ 休憩(10分)
- 14:50 ~ ポスターセッション (第2部)
- 16:10 ~ 自由討論(10分)
- 16:20 ~ 休憩(10分)
- 16:30 ~ ポスターセッション (第3部)
- 17:50 ~ 自由討論(10分)
- 18:00 ~ 1日目終了

記念講演・講師略歴

伊藤 千尋 氏 (いとう ちひろ：国際ジャーナリスト)



1949年、山口県生まれ。71年にキューバでサトウキビ刈り国際ボランティアに参加。73年、東京大学法学部を卒業、東大「ジプシー」調査探検隊長として東欧を調査する。74年、朝日新聞社に入社。東京本社外報部などを経て、84～87年サンパウロ支局長。88年、「AERA」創刊編集部員を務めた後、91～93年バルセロナ支局長。2001～04年ロサンゼルス支局長。現在はフリーの国際ジャーナリスト。「コスタリカ平和の会」共同代表、「九条の会」世話人も務める。

主著に、『凜としたアジア』『凜とした小国』『辺境は旅ゆけば日本が見えた』『一人の声が世界を変えた！』（以上新日本出版社）、『今こそ問われる市民意識』（女子パウロ会）、『地球を活かすー市民が創る自然エネルギー』『活憲の時代ーコスタリカから9条へ』（以上シネ・フロント社）、『世界を変えた勇気』（あおぞら書房）、『新版、観光コースでないベトナム』『キューバ～超大国を屈服させたラテンの魂』（以上高文研）、『世界一周 元気な市民力』（大月出版）、『反米大陸』（集英社新書）、たたかう新聞ー「ハンギョレ」の12年』（岩波ブックレット）、『太陽の汗、月の涙ーラテンアメリカから問う』（増補版、すずさわ書店）、『燃える中南米』（岩波新書）。

第2日目 2019年10月12日(土) 9:00～12:00

4つの会場に分かれてのテーマ別セッション（詳細は次ページ以降を参照）

◆テーマ別セッションⅠ

『SDH（健康の社会的決定要因）とヘルスプロモーション』

◆テーマ別セッションⅡ

『いのちと人権を守る運動をさらに発展させ、誰もが安心して住みつづけられるまちづくりをすすめよう』

◆テーマ別セッションⅢ

『憲法を生かし、平和で誰も置き去りにしない世界をつくっていこう』

◆テーマ別セッションⅣ

『貧困と格差にたちむかう産婦人科・小児科・精神科・歯科の取り組み報告と症例検討』

第2日目 2019年10月12日(土) 13:00～16:30

現地企画：松代大本営跡見学バスツアー（定員45名～50名程度）

13:00 ホクト文化ホール発 ⇒ 13:40 松代大本営跡見学 ⇒ 16:00 頃長野駅着
（※渋滞等により遅延の可能性有り）

参加申込等は後日、別途お知らせいたします。

テーマ別セッションI

SDH（健康の社会的決定要因）とヘルスプロモーション

【セッションの獲得目標】

全日本民医連は、第42回総会において新たな時代の医療・介護活動の指針として「医療・介護活動の2つの柱（①「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別・平等の医療・介護の実践」、②「安全、倫理、共同のいとなみを軸とした総合的な医療・介護の質の向上」）を掲げました。それは貧困・格差の拡大と少子高齢化が急速に進む時代にあって、「無差別・平等の地域包括ケア」の実現を目指して、人々のライフコースに合わせて質の高い医療・介護を総合的に提供することを目的としています。民医連が設立当初から重視してきた「患者を生活と労働の場面でとらえる」姿勢や「共同のいとなみ」の視点は、SDHの発見やHPH（ヘルスプロモートイングホスピタル&ヘルスサービス）ネットワーク活動の広がりとともに健康を考える上で不可欠のものになり、それはWHOをはじめとした世界の潮流と合致するものです。この数年間、私たちがカナダの実践例から学んだように、医療・介護の職員が社会システムの改善に関わることは日常業務の延長線上にあり専門職に必要な能力・資質（コンピテンシー）です。私たちの活動のフィールドはマイクロ（診察室や在宅）からメゾ（地域）、マクロ（県や国レベル）に広がっており、その内容も医療・介護・福祉の現場だけでなく、地域保健や市民運動、教育分野などとの連携が求められています。それはより良い地域社会を築くための「まちづくり」とも言える総合的な活動です。

このセッションでは、この間の取り組みの成果をふまえ、

- ① SDHの視点を理解し、その中でのヘルスプロモーション、HPHネットワークの取り組みの意義を共有する。
- ② 医療介護活動の2つの柱の実践の交流を通して、私たちの多職種連携の課題やより良い地域社会を築くための課題について、今後の方向性をお互いに考えたいと思います。

【タイムテーブル】

- 9:00 ~ 開会挨拶
- 9:05 ~ 記念講演 『SDHとヘルスプロモーション』（75分：質疑15分含む）
公益社団法人 福岡医療団 理事長 舟越 光彦氏（J-HPH コーディネーター）
- 10:20 ~ 休憩（10分）
- 10:30 ~ シンポジウム（15分×4報告）
- ① 『地域・多職種連携』（仮題）：武井 大氏（栃木・宇都宮診療所・医師）
 - ② 『歯科現場における貧困介入ツールの実践』（仮題）
：松浦 佳美氏（埼玉・あさか虹歯科・事務長）
 - ③ 『医療現場におけるSDHとヘルスプロモーション』（仮題）
：黒澤 理穂氏（北海道・伏古10条クリニック 看護部長）
 - ④ 『介護現場におけるSDHとヘルスプロモーション』（仮題）
：伊藤 秀泰氏（東京・(株)福祉協同サービス）
- 11:30 ~ 全体討論（20分）
- 11:50 ~ 閉会あいさつ

テーマ別セッションII

いのちと人権を守る運動をさらに発展させ、誰もが安心して住みつけられるまちづくりをすすめよう

【セッションの獲得目標】

43期総会方針は「共同組織とともに、安心して住みつけられるまちづくりの本格的な運動をつくろう」と呼びかけました。そして、公的責任を放棄しようと政府が打ち出す「地域共生社会」に対抗して、安心して住みつけられるまちづくり、地域の福祉力を高めるまちづくりの実践が共同組織とともに広がっています。また、民医連事業所と共同組織が協力した居場所づくり、助け合いや支えあいの場における、医療や介護、福祉の専門職としての活動など、全国各地で様々な取り組みが繰り広げられています。

このセッションでは、アーロン・ヘイムス氏にご講演いただくことになりました。アーロン氏は昨年共同組織活動交流集会でご講演いただき、民医連の共同組織のすばらしさを研究者の立場から語っていただき好評でした。今回は職員向けに、民医連と共同組織、まちづくりについて語っていただく予定です。

講演の後は、3人のシンポジストに発言をいただいた後、意見交換します。職員が共同組織とともにまちづくりの課題に取り組むことは、安心して住みつけられるまちづくりをめざす綱領実践そのものです。全国の活動のヒントになり、励ましとなる発言を予定しています。みなさまの参加をお待ちしています。

【タイムテーブル】

9:00～ 開会のあいさつ

9:05～ 「まちづくりと民医連」(60分)

講師：アーロン・ヘイムス氏

【ワシントン大学(セントルイス)医療人類学専攻 大学院博士課程】

10:05～ シンポジウム

座長：根岸 京田氏(まちづくり委員会委員長・全日本民医連副会長・医師)

「地域に広がるなんでも相談会のネットワーク」

森松 伸治氏(東京ほくと医療生活協同組合)

「行政と取り組むまちづくりー川口市自治体委員会の取り組みー」

熊倉 正明氏(医療生協さいたま 埼玉協同病院)

「日本のてっぺんでの医療・介護連携とまちづくりのとりくみ」

三瓶 峰智氏(道北勤医協宗谷医院)

11:05～ 休憩(10分)

11:15～ フロア討論

11:50～ セッションのまとめ

12:00 閉会

テーマ別セッションⅢ

憲法を生かし、平和で誰も置き去りにしない世界をつくっていこう

【セッションの獲得目標】

～平和が文化となり、理想を現実にした国「コスタリカ」から学ぶ～

コスタリカは1948年に軍隊を廃止、軍事予算を社会福祉に充て、無料の教育・医療を実現、環境のために国家予算を振り分けてきました。国民の幸福度を最大化する道を選んだ「コスタリカの奇蹟」に迫ったドキュメンタリー映画を鑑賞し、文化的に学び・深めあう企画とします。

映画は1948年から1949年にかけて行われた軍隊廃止の流れを追いながら、コスタリカが教育・医療・環境にどのように投資していったのかを詳しく説明します。映画の中のインタビューで、1987年にノーベル平和賞を受賞したオスカル・アリアス・サンチェス元大統領は『無防備こそ最大の防衛。軍をもたないことで強くなった』と訴えます。また、近年の格差とグローバル化、麻薬戦争にどう立ち向かっているかまで、コスタリカの苦闘の歴史も学ぶことができます。

上映後は、自らコスタリカ留学の経験を持ち、この映画の上映サポートの会のメンバーでもある池川広太さんとのトークセッションを行います。コスタリカの憲法、その憲法が国民生活にどのように浸透し活用されているか、コスタリカでの教育の様子など、若い世代の池川さんの目に映った「コスタリカ」から、憲法を身近に引き寄せて考える機会とします。

いま、改憲の動きがある中、「コスタリカの奇蹟」から学び、憲法を生かし、誰も置き去りにしない平和な世界をつくっていく、私たち1人ひとりの力をさらに発展させるためにも大いに学びあいましょう。

【セッション企画内容】

- ◆映画『コスタリカの奇蹟』上映（90分）
- ◆池川 広太氏(上映サポートの会)の補足講義とトークセッション

【タイムテーブル】

9:00 ～	開会挨拶
9:05 ～	「コスタリカの奇蹟」上映（90分）
10:35 ～	休憩（15分）
11:50 ～	補足講義(20分) 講師：池川 広太氏（上映サポートの会）
11:10 ～	トリオセッション(10分)
11:20 ～	会場との質疑応答、補足（35分）
11:55 ～	閉会あいさつ

テーマ別セッションⅣ

貧困と格差にたちむかう産婦人科・小児科・精神科・歯科の 取り組み報告と症例検討

【セッションの獲得目標】

第13回の学運交において産婦人科・小児科・精神科と歯科部が合同で行ったセッションから2年。各診療科から貧困と格差にたちむかう民医連の産婦人科、小児科、精神科、歯科の取り組みについて報告し、参加者で共有する。

精神科からの報告については、①格差と貧困が拡大するなかで困難をかかえている患者さんを複合的にみることの大切さ、②さまざまな場面に「排除」の考え方があり、そのことが困難をさらに拡大していること、③困難を解決するうえで専門家ではなくとも、地域でいっしょに暮らしていけるまちづくりをすすめている人たちとも連携していくなど、医療者として何ができるか、症例検討会を通じて参加者が多くの気づきをえられるよう場としたい。

【セッション企画内容】

◆あいさつ 松浦 健伸氏（石川・城北病院・医師）

◆各科からの症例報告＜各20分+質疑応答5分、80分＞

座長：今村 高暢氏（愛媛・愛媛生協病院・医師）

① 産婦人科「ハイリスク妊産婦の症例報告（仮題）」：曾原 雅子氏（北海道・札幌病院・医師）

② 小児科「『子育て世代の生活実態調査』中間報告」：和田 浩氏（長野・健和会病院・医師）

③ 歯科「アルコール依存症の患者さんの症例報告（仮題）」：山口 彩子氏（熊本・菊陽病院・歯科医師）

◆症例検討＜85分＞

① 岐阜の症例発表（30分）

渡邊 貴博氏（岐阜・ささしまサポートセンター・医師）、
戸崎日月氏（学習支援室こもれび・事務）

② 症例検討会（55分）

座長：近藤 知己氏（愛知・北病院・医師）

産婦人科医：長島 香氏（北海道・札幌病院・医師）、

船山 由有子氏（宮城・坂総合病院・医師）

歯科医師：岩下 明夫氏（東京・立川相互歯科・歯科医師）

他

◆閉会挨拶 船山 由有子氏（宮城・坂総合病院・医師）

【タイムテーブル】

9:00 ～ 開会挨拶

9:05 ～ 各科活動・症例報告(80分)

10:25 ～ 休憩（15分）

11:50 ～ 症例検討会（85分）

12:05 ～ 閉会あいさつ

会場

ホクト文化ホール（※長野駅より徒歩 10 分）

〒380-0928 長野県長野市若里 1-1-3 TEL：026-226-0008

公共交通機関をご利用の場合



JRご利用の場合

JR長野駅下車、東口から徒歩約10分

タクシーご利用の場合

JR長野駅東口から約5分

バスご利用の場合

JR長野駅善行寺口からバス利用

■2番乗り場から日赤方面行、犀北団地循環
中御所下車(約4分)、会館まで徒歩約5分

JR長野駅東口からバス利用

■21番乗り場から日赤線
文化会館入口下車(約3分)、会館まで徒歩約5分

JR長野駅東口からバス利用

乗り場21番から長電バス
日赤線
文化会館入り口下車(約3分)
会館まで徒歩5分

車ご利用の場合



長野I.C.を下り、最初の信号を右折直進。
R18を横切りそのまま直進。R117に合流後、丹波島橋を渡り、800m先の信号(会館入り口表示有)右折。400m先右折。
長野I.C.から約30分。

駐車台数

普通車:約210台
車椅子専用(青色部):5台
パーキングパーミット(緑色部):5台
大型車:20台

※収容台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。
※満車の場合は、駅周辺の有料駐車場をご利用ください。

規 模

規 模 1,150名

各県連の参加要請数は別表 P12 のとおりとなります。しかし要請数は上限の数字ではございませんので、各地の研究結果や取り組みなどをより多くの方と共有するためにも、ぜひとも要請数以上の方にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。共同組織の方や医系学生の方にも積極的に参加組織をお願いいたします。

参加費

参加費 お一人様 15,000円

(※参加費には 11 日昼食代、『抄録集』代金、集会運営費、会場費等が含まれます。)

参加申込 登録期間

2019年7月30日(火) 9:00 ~ 9月4日(水) 17:00 ※厳守

参加申込 登録方法について

- ① 集会参加申し込みの登録は、全日本民医連のホームページからとなります。ホームページからアクセスするための登録用コードは「**g k 14**」です。
詳細は別添 1 資料「参加者登録操作マニュアル」をご参照ください。
- ② 参加申し込みは、県連・法人単位でご担当者を決めていただき入力作業をお願いします。担当者は何人でも登録できます。担当者をどう配置するかについては県連毎にご判断ください。
- ③ 7月29日以降の演題発表等の変更や9月5日以降の参加者変更については、別添 4 資料「**変更届**」用紙に必要事項をご記入の上、gk14@min-iren.gr.jpまでメールにてお送りください。
「**変更届**」は学運交 HP からダウンロードできます。
- ④ ポスターセッション演題発表者も参加申し込みが必要です。必ず参加登録してください。
- ⑤ テーマ別セッションにおいて参加規模を把握するため、今回 Web 申込み画面にて事前にテーマ別セッション希望会場を選択いただきます。*詳細は別添 1 資料「参加者登録操作マニュアル」をご覧ください。

演題発表者の変更方法について

演題発表者の変更につきましては、別添 3 資料「**変更届**」用紙に必要事項をご記入の上、gk14@min-iren.gr.jpまで必ずメールにてお送りください。抄録の制作システム上、「変更届」を送っていないと、抄録集等には反映されません。また、8月下旬以降の変更となりますと作業の関係で抄録集には反映できませんのでご了承ください。

演題発表の取り消し方法について

演題の取り消しにつきましても、別添 3 資料「**変更届**」用紙に必要事項をご記入の上、gk14@min-iren.gr.jpまで必ずメールにてお送りください。抄録の制作システム上、「**変更届**」を送っていただかないと、抄録集等には反映されません。また、8月下旬以降の変更となりますと作業の関係で抄録集には反映できませんのでご了承ください。

参加費の入金方法について

参加費は集会終了後、各県連宛に当該県連より参加した参加者一覧を掲載した請求書を送付します。県連単位でのお振り込みをお願いいたします。なお、振り込み先などは、請求書と併せてお知らせいたします。

※参加のキャンセルについて

2019年9月27日(金)17時以降の参加キャンセルは、参加費全額を請求させていただきます。

宿泊・交通の手配について

宿泊・交通手配については**(株)トラベル本舗**をご活用ください。別添 5「宿泊申込み書」に記載をし、メールもしくは FAX で**トラベル本舗**へご連絡ください。宿泊に関して全日本民医連学運交事務局は、関与いたしませんのでご了承ください。また、航空券とホテルなどがセットになった「パック」を、各法人や参加者それぞれで手配していただいても結構です。

その他

書籍販売については、別添 4「書籍販売申込書」をご参照ください。参加申し込みを行う上で事前に概要をつかんでいただく参考として、学運交ホームページにニュース等を紹介しておりますので是非ご覧ください。後日県連を通じて全日本民医連から「参加証」など必要な書類をお送りいたします。(発送は9月末頃から10月始めの予定です)

<参加申し込み、集会の詳細についての問い合わせ先>

〒113-8465

東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター7階

全日本民医連第14回学術・運動交流集会実行委員会

担当事務局：洲崎 山川 堀岡 代田 福峯

TEL：03-5842-6451 / FAX：03-5842-6460

E-mail：gk14@min-iren.gr.jp